作成: 2013 年 12 月 4 日

GPS 安全性要約書

イソプロピルアルコール (IPA)

この GPS 安全性要約書は、化学産業界の自主的化学物質管理の取組み (GPS : Global Product Strategy) に基づいて、弊社が製造する化学製品の安全な取り扱いに関する概要を提供することを目的としています。 ヒト健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細、法規制情報や分類・ラベル情報等の専門的な情報を提供するものではありません。 また、弊社が発行する安全データシート (SDS) に代わるものではありません。 本製品のお取り扱いに際しては、弊社が発行する SDS をご確認下さい。

記載内容は、現時点で入手できる法令、資料、情報およびデータに基づいて作成しておりますが、品質など、いかなる保証をするものではありません。

1. 物質の特定 (Chemical statement)

物質の特定	説明
三井化学の製品名	イソプロピルアルコール (IPA)
化学名 (別名)	IPA、イソプロパノール、2-プロパノール (IUPAC 名 : Propan -2- ol、プロパン-2-オール)
CAS 番号	67-63-0
分子式	C_3H_8O
構造式	$(CH_3)_2CHOH$
官報公示整理番号	化審法 : 2-207、安衛法 : 2-(8)-319

2. 物質の概要 (General statement)

イソプロピルアルコールは、無色透明で、アルコール臭のある、水と混和する液体で、高い引火性があります。 一般的に、印刷用インク・塗料の溶剤、電子工業用洗浄剤、有機中間体原料、溶剤などに用いられています。

イソプロピルアルコールは、眼に対し強い刺激があり、生殖能又は胎児へ悪影響を及ぼす恐れがあります。 一度飲み込んだだけ、または吸入しただけでも、全身や特定臓器中枢神経系、腎臓へ障害を与える、また気道へ刺激を与える恐れがあります。 長期に飲み続ける、また吸入し続けると、血管、肝臓、脾臓に障害を起こす恐れがあります。

イソプロピルアルコールが水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いと考えられます。また、環境中に残留する可能性、生物生体内に蓄積する可能性はともに低いと考えられます。

作業者がイソプロピルアルコールを使用する場合は、気化しやすいので蒸気が漏洩しないように、また、ミストが発生しないように管理して下さい。 密閉されていない場合、局所排気装置を設置するなどして、十分に換気を行って下さい。 ACGIH (米国産業衛生専門家会議)による作業環境許容濃度の勧告値は 200 ppm (TWA*1) ですので、これを下回るよう管理・制御して下さい。 作業環境濃度が高い場合は、防毒マスクの着用を考慮して下さい。 吸収缶は有機ガス用のものを推奨します。 付着すると皮膚から吸収されますので、皮膚を露出しないようにして下さい。

消費者がイソプロピルアルコールを含む製品*2 を使用する場合は、商品付属の取扱説明書に従って使用して下さい。 環境への影響を最小化するために、イソプロピルアルコールまたはこれを含む製品および製品の残留物を河川、水路、下水溝などに流さないで下さい。

*1: 7. 推奨するリスク管理措置 を参照して下さい。

*2: イソプロピルアルコールを含む水溶液が消毒薬として広く使用されています。 イソプロピルアルコールを含む消毒液を使用する際は、消毒液の取扱説明書に従って使用して下さい。

3. 製品情報 (Product information)

三井化学のイソプロピルアルコールは、主に溶剤、医薬品、農業薬品などに使用されています。 それ以外の一般的用途には、印刷用インク・塗料の溶剤、電子工業用洗浄剤、有機中間体原料、溶剤 などがあります。

(出典 : NITE CHRIP IV. 暴露情報 http://www.safe.nite.go.jp/japan/sougou/view/ComprehensiveInfoDisplay_jp.faces)

この製品に関する詳しい情報については以下にお尋ね下さい。

三井化学株式会社

https://www.mitsuichem.com/contact/safety/

4. 物理化学的特性 (Physical / Chemical properties)

イソプロピルアルコールは、無色透明で、アルコール臭のある、水と混和する液体で、高い引火性があります。 火気に注意して使用して下さい。

特性	説明
外観	液体
色	無色透明
臭い	アルコール臭
融点	- 90 ℃

沸点	83 ℃
比重	0.79 (水より軽い)
引火点	11.7 ℃ (引火性の高い液体 (蒸気))
発火点	456 ℃ (通常の温度では発火しない)
蒸気圧	4.4 kPa (20 ℃) (強い揮発性がある)
水溶解性	水に混和する (極めて溶けやすい)

5. ヒト健康影響 (Health effect)

イソプロピルアルコールは、眼に対し強い刺激があり、生殖能又は胎児へ悪影響を及ぼす恐れがあります。 一度飲み込んだだけ、または吸入しただけでも、全身や中枢神経系、腎臓へ障害を与える、また気道へ刺激を与える恐れがあります。 長期に飲み続ける、または吸入し続けると、血管、肝臓、脾臓に障害を起こす恐れがあります。

影響	説明
皮膚腐食性･刺激性	皮膚への刺激が生じる可能性は低いと予想されます
眼に対する重篤な損傷性/刺激性	眼に対し強い刺激があります
感作性 (呼吸器) (皮膚)	分類できません 分類できません 補足情報 : Echa (欧州化学品庁) の HP には皮膚感作性なしの試験結果が掲載されています
生殖細胞変異原性	遺伝性疾患が生じる可能性は低いと予想されます
発がん性	分類できません
生殖毒性	生殖能又は胎児へ悪影響を及ぼす恐れがあります
特定標的臓器毒性 (単回ばく露)	一度飲み込んだだけ、または吸入しただけでも、全身や中枢神経系、腎臓へ障害を与える、また気道へ刺激を与える恐れがあります
特定標的臓器毒性 (反復ばく露)	長期に飲み続ける、または吸入し続けると血管、肝臓、脾臓に障害を起こす恐れがあります
吸引性呼吸器有害性	分類できません

6. 環境影響 (Environmental effect)

イソプロピルアルコールは、水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いと考えられます。 環境中に残留する可能性、生物生体内に蓄積する可能性はともに低いと考えられま

す。

環境有害性	説明
水生環境有害性	水棲生物に対して有害性を及ぼす可能性は低いです
大気環境有害性	知見がありません

環境中の運命・挙動	説明
生分解性	環境中に残留する可能性は低いです
生物蓄積性	生体内に蓄積する可能性は低いです (予測結果)

7. 推奨するリスク管理措置(Risk management recommendations)

イソプロピルアルコールを使用する際に、SDS または取扱説明書に従い、以下のリスク管理措置をとることを推奨します。 これらリスク管理措置をとることで、作業者、消費者および環境のイソプロピルアルコールに対するリスクは管理できると考えられます。

対象	リスク管理措置
作業者	・気化しやすいので蒸気が漏洩しないように、また、ミストが発生しないように管理して下さい。 密閉されていない場合、局所排気装置を設置するなどして、十分に換気を行って下さい。 ACGIH (米国産業衛生専門家会議) による作業環境許容濃度の勧告値は 200 ppm (TWA*) ですので、これを下回るよう管理・制御して下さい。 作業環境濃度が高い場合は、防毒マスクの着用を考慮して下さい。 吸収缶は有機ガス用のものを推奨します。 *: 米国産業衛生専門家会議によって設定された、1 日 8 時間、週 40 時間の繰り返し労働において作業者に対し有害な影響を及ぼさない濃度 ・付着すると皮膚から吸収されますので、皮膚を露出しないようにして下さい。 ・作業管理者は作業者に対し、適切な保護具の選択および使用方法、また作業場の管理方法を教育して下さい ・取り扱い場所の近くに目及び身体の洗浄装置を設置して下さい
消費者	商品付属の取り扱い説明書*に従って使用して下さい *: イソプロピルアルコールを含む水溶液が消毒薬として広く使用されています。 イソプロピルアルコールを含む消毒液を使用する際は、消毒液の取扱説明書に従って使用して下さい。
環境	・製造および加工の過程では、排気・排水設備を設置し、定期的な設備の保守点検を実施して下さい ・イソプロピルアルコールまたはこれを含む製品および製品の残留物を河川や水路、下水溝などに流さないで下さい

	・漏洩防止対策をして下さい

8. 発行・改定日 (Date of issue / Revision)

2014 年 2 月 20 日発行

弊社ホームページにて、最新の GPS 安全性要約書であることをご確認下さい。

http://www.mitsuichem.com/ps/index.htm

(注 1) GHS 分類: Globally Harmonized System of Classification and Labeling of Chemicals

世界的に調和されたルールに従い、化学品を危険有害性の種類と程度により分類するシステム。

「物質および混合物の分類、表示および包装 (CLP) に関する欧州議会および理事会規則 (EC (No) 1272/2008 annex IV)」に従った分類を採用した。

http://echa.europa.eu/web/guest/information-on-chemicals/registered-substances

作成/改定日	項目	改定箇所	引用 SDS 発行日	版
2013/12/4			2013/7/10	1

GPS 安全性要約書は、ヒト健康や環境への影響あるいはリスク評価の詳細、法規制情報や分類・ラベル情報等の専門的な情報を提供するものではありません。 また、弊社が発行する安全データシート (SDS) に代わるものではありません。 本製品のお取り扱いに際しては、弊社が発行する SDS をご確認下さい。